

答え合わせ・解説

| | | |
|-----|-------------------|--|
| 問1 | 答え 4 藩校 | 各藩は、儒学を基本とした学問と、剣術などの武芸を併せて教える藩校を設置しました。ここでの教育を通じて、藩を統治するための有能な人材が育成されました。 |
| 問2 | 答え 4 中国（清） | 江戸時代に入り、薩摩藩の支配下に入った後も、琉球王国は中国（清）に対して朝貢（貢ぎ物を捧げ、返礼を受ける貿易形態）を続けることが許されました。これは薩摩藩が中国との公的な貿易ルートを間接的に確保するため、あえて琉球の形式的な独立を維持させたためです。 |
| 問3 | 答え 2 本居宣長 | 本居宣長は、長く研究を続けていた『古事記』を詳細に解説した『古事記伝』を執筆し、国学を学問として大成させました。彼は、外来の思想に染まらない「ものごころ」という日本独特の感性を重視しました。 |
| 問4 | 答え 4 参勤交代 | 1635年、徳川家光によって制度化された参勤交代は、大名を1年おきに江戸と領地に住まわせる義務を課すものです。この往復費用は莫大であり、大名の財政を圧迫して反乱の余力を削ぎました。また、妻子を人質として江戸に住まわせることも義務付けられていました。 |
| 問5 | 答え 3 南蛮貿易 | 主な貿易品は、中国産の生糸や日本の銀などでした。貿易とともに、鉄砲やキリスト教、西洋の医学や天文学などの知識が日本にもたらされました。これは日本の技術発展や文化形成に大きな影響を与えました。 |
| 問6 | 答え 1 天明のききん | ：この飢饉は天明のききんと呼ばれ、全国的な米不足を招きました。食糧不足により米価格が高騰し、都市部では打ちこわしが多発するなど、幕府の権威が揺らぐ社会情勢となりました。 |
| 問7 | 答え 3 イギリス | 1688年に起きた名誉革命は、流血をほとんど伴わずに国王を追放し、議会在主権を握る体制へ移行させた出来事です。これによって、国王は法律を守り議会に従う「立憲君主制」の形が確立されました。 |
| 問8 | 答え 3 大名 | 大名は、1万石以上の領地を持つ武士の呼称です。幕府は彼らを親藩・譜代・外様というグループに分け、配置を工夫することで互いに監視させたり、転封によって勢力を強めさせないようにしました。 |
| 問9 | 答え 3 五人組 | 五人組は、近隣の5戸程度の農家をグループ化し、年貢の完納や犯罪の防止について連帯責任を負わせた制度です。もし一人が年貢を納められなかったり罪を犯したりすれば、他の組員も罰せられました。この制度により、幕府は直接農民を管理しなくても、強固な村の統制を維持できました。 |
| 問10 | 答え 3 浮世絵 | ：浮世絵は、当時の流行や風俗を題材にした木版画です。美人画や役者絵から始まり、江戸時代後期には歌川広重や葛飾北斎により風景画が人気を集めました。 |
| 問11 | 答え 2 寛政の改革 | 老中となった松平定信は、倹約令を出して支出を抑えるとともに、都市へ流出した農民を強制的に帰郷させる「人返し法」を施行しました。また、朱子学以外の学問を制限する寛政異学の禁なども行い、幕府の権威を回復しようとした。 |
| 問12 | 答え 2 下肥 | 都市部で排出される排泄物は、農村において「下肥（しもごえ）」という貴重な肥料として買い取られました。これは都市と農村を結ぶ循環型経済の側面を持っていました。 |
| 問13 | 答え 4 朱印状 | 江戸幕府は特定の商人に「朱印状」を発行し、その船（朱印船）に東南アジア方面との交易を独占的に認めました。これにより、多くの商人が東南アジアの各地に日本町を形成しました。 |
| 問14 | 答え 2 大日本沿海輿地全図 | 「大日本沿海輿地全図（だいにほんえんかいよちぜんず）」は、伊能忠敬が全国を歩いて測量したデータを基に作成したものです。緯度・経度の概念を取り入れたこの地図は、当時の技術としては驚くほど正確で、海岸線だけでなく主要な街道や山々の位置も詳細に記されていました。 |
| 問15 | 答え 3 立憲君主制 | 立憲君主制とは、君主が存在するものの、その権力が憲法や議会によって制限されている政治の仕組みです。1689年の権利の章典により、イギリスはこの体制の先駆けとなりました。 |
| 問16 | 答え 2 京都所司代 | 京都所司代は、朝廷や公家を監視するだけでなく、西日本の大名の動向を伺う重要な役割を担っていました。高い地位を持つ譜代大名から選ばれることが多く、幕府の重要ポストの一つとされました。 |